

利根運河

1. 利根運河の長さが 8.3km, 8.4km, 8.5km との説明があるが、統一する必要がある。

「流山のむかし」にはムルデルの計画では 2 里 4 町（約 8・3 km）、「利根運河解説之碑」には約 8 km とあるが、同書では計画書から 8・3 km としている。

（流山市観光協会、国土交通省、野田市ホームページでは 8・5 km となっている）

注）国土交通省の HP では「流路延長 8・5 km（利根川高水敷を含む）」との表現。

根拠は計画書の 2 里 2 町余から 1 里を 4 km として計算。河道はその後変化しているので幾通りもある。

「完成時の実際の距離を採用すべきではないか」との意見が出た。例えば「利根運河碑」の数字（「四千四百五十間余」≒8.1km）を採用するなど。しかしこれも根拠は不明。

例会では「完成時の記録は無い」とのことだったが、田村理事長がその後調べたところ、『利根運河史』運河開削工事状況に開削距離 4 4 0 8 間（8, 0 1 3 m）とあり、『利根運河史』は会社に残された資料をもとに作成されたもので、これが完成時の距離とされた。その後頻繁に利根川口、江戸川口の付け替えが行われたので距離も変化した。

現在表現されている各種の距離は間違いではないので（正解は一つではない）、会として統一するのではなく、事実を表現したほうが良い、との追加コメントです。

参考文献等：「チェック流山のむかし」、国土交通省 HP、「流山市史 近代資料編・新川村関係文書」、「利根運河碑」他

2. 利根運河建設における作業員の宿泊施設は？

作業員宿舎（人足小屋）や近隣の者は通っていた。あるいは知人の家から物置などを借りて通っていたと思われる。

3. 利根運河をなぜ、国は買い取ったのか。日本も戦争中で大変な時期であったのに。

利根運河工事は、本来国が行うべきとして調査までしたが、それを民間に任せた責任があった。関東大震災時、鉄道が被災したので、そのような時の路線確保も視野にあった。治水における河川の管理もあった。

4. 昭和 17 年に国に売却されたが事業権、運営権の他、債務（借金）まで国が引き取ってくれたのか。

内務省は利根川増補工事のため、利根運河買収を利根運河株式会社に提示し、それを受けて会社は臨時株主総会で売却を決議した。売却後は会社清算しかないので、債務を含め、清算人が会社整理を行った。清算人代表は柳沢清春氏。

5. （1）ビリケンが運河脇に設置した目的は何か。

利根運河の支配人森田繁男さんが、大正 2 年に森田果樹園と「新四国八十八ヶ所霊場」の開設とともに集客を目的としてビリケンを設置した。大正時代になると、鉄道の発達により水運業が衰退し、運河の経営が苦しくなってきたからである。

（2）2 代目ビリケンが令和 2 年春に延期されたが除幕式はいつになるのか。

令和 3 年 3 月 25 日（土）に設置。

6. 利根運河霊場八十八ヶ所設置目的は何か。ご利益は。

「霊場創建趣意書」には「大師の徳を運河沿岸に招き、衆生救済の場を作る」とある。

利根運河流域の人々の繁栄と安寧を弘法大師の徳にすぎるため。

ご利益については、個人の願い事を願掛けする場所が霊場で、ご利益があるかどうかは個人の心の問題である。

大正の時代になると、鉄道の発達により水運業が衰退したこともあり、集客にも（副次的に）貢献した。

7. 利根運河大師堂にある番号の大師をお参りすると、四国霊場の同じ番号のお寺をお参りしたことになるのか。

四国霊場の同じ番号のお寺をお参りしたことになる。

詳細は質問者が調査し、定例会で発表してほしい。

8. 不動坊とは？

不動明王を祀る仏堂が不動堂で、西深井の不動堂のある墓地を不動坊といい地元の共同墓地である。

21

9. 利根運河ができたことによる時間短縮は

具体的なデータとその出典は

ムルデルの計画書によれば38.4km短縮（「流山のむかし」144ページ）

2015年9月の勉強会の資料に、利根運河を作ったことによる効果として「東京～銚子間は、関宿経由と比較して距離で約42km、船舶で3日→1日に短縮」とある。根拠は「志摩万次郎伝」（田村理事長著）P36および「利根運河120年の記録」P9。「42kmの短縮」は竣工式での千葉県知事の祝辞などで語られた数字。ムルデルの計画書との相違は、利根川の河口位置の違いなどによるものと推測される。

参考文献等：「チェック流山のむかし」P143の上部の注釈に「九里二十八丁ノ減縮」「一日ヲ以テ東京ニ達シ得ル」とある。出所は「流山市史 近代資料編新川村関係文書」

10. 利根運河の通行料金

何回か改定されたと思うが、具体的な数値を知りたい。

「利根運河120年の記録」流山市教育委員会編の38ページに明治39年の通行料金表が掲載されている。

「新版 利根運河」P74にも詳しく記載されている。船の大きさ、長さ、和船、汽船、筏など種類別、容積別に詳しく定められている。年代によっても変化。本著では昭和9年改訂運賃で昭和16年までの平均が「和船5円50銭、汽船5円」となっている。

参考文献等：「利根運河120年の記録」P38資料5「利根運河通航料徴収規定表」、「新版 利根運河」

11. 利根運河完成後の経営状況

株式会社のため年度毎の貸借対照表、損益計算書が見たい。

国に売却した資産価値と売却額を知りたい。

「流山市史 別巻・利根運河関係資料」に完全ではないが、ある程度の資料は掲載されているので確認してもらいたい。売却額は同資料によれば「21万5556円」。参考までに資本金40万円、建設の総工費約60万円。会社清算時株主に還元されたのは3円。

「チェック流山のむかし」P145には、利根運河会社が、内務省から買収額約22万5千円の提示を受けて売却することを決定した、となっている。

参考文献等：「流山市史 別巻・利根運河関係資料」、「チェック流山のむかし」、「利根運河120年の記録」P74、P78

1 2. 窪田酒造と旧新川屋の位置

博物館展示の「利根運河の図」を拡大すると、左側に煙突のある建物、運河を挟んで右側には大きな建物が描かれている。これを窪田酒造と旧新川屋と説明して良いか。

船頭たちが新川屋で飲んでいて、お酒が無くなると向いの窪田酒造に「酒が無くなった」と叫ぶと伝馬船で酒が届いた、という話もあり、対面にあったことは間違いないと思われるので、絵図どおりだと思われる。ガイドの際には、「旧新川屋は窪田酒造の向い側にあった」という説明で良い。

参考文献等： 「明治四十年當時之利根運河風影略図川口ヨリ釣橋望ム」 白川新八筆（別紙1,2参照）

その他

1. 江戸時代の流山は天領、知行地、相給等支配地が分散されていたが、行政はどのようになっていたのか。

その土地の支配者が行政を行っていた。

「流山市史研究」市域村々の近世初期領主と知行者 松下邦夫

上記資料に記述があるが、さらに質問者は調査をし、定例会勉強会で発表してほしい。

2. 東深井古墳群から出土した馬形、魚形などの貴重な埴輪本体は野田郷土博物館（野田市）や致道博物館（山形県鶴岡市）に所蔵されているが、博物館同士で話し合いをする必要があるのではないかと。

政治的要素が含まれているので、博物館に任せる。

3. 文政期以前の村

文政期には4 1の地名とその支配地域が「流山のむかし」に記載されているが、それ以前は「八木、南、名都借、加、鰯ヶ崎、深井、桐ヶ谷、野々下、前ヶ崎、大畔、長崎、膝丸」の1 2の地名があったと聞いている。その地域の場合、この他になかったか調べる方法を知りたい。

文政期の村は「チェック流山のむかし」P196～197に記載されており、それ以前については、「検地帳」、「郷帳」と「国絵図」によるが、「流山の地名を歩く」（流山市立博物館）に記載がある。「膝丸」などは本土寺過去帳に出てくる。

参考文献等：「チェック流山のむかし」、「流山の地名を歩く」（P10～13。P13には地図上に地名の入った資料（別紙3参照）、本土寺過去帳による流山の地名については「中世の流山を探る」（博物館）P20にも記載がある

4. 四国八十八ヶ所巡り

・札所の写しとして大師堂を設置する場合は、四国八十八ヶ所巡りの札所のお寺の許可が必要ですか、またそのお寺の周囲の砂を持ってきて撒く必要がありますか。

・お大師像の台座に水差しと草履が彫られていることがありますが、何を意味していますか。

お寺の許可はとらなくても良かったのではないかと。また砂については、現実的には無理なので持ってきたことにしたと思われる。廃寺で移動したりもあるし。しかし砂や御札を宣伝に使っていることは事実。

実際に四国から砂を持ってきた所もあることも事実。富士塚の「富士山の砂」も同様。

台座の水差しと草履は、「水瓶（すいびょう）」と「鼻高履（びこうり）」。「水瓶」は瓶の水を残さず別の瓶に移すように師から弟子へと教えを伝えよ、との意味。「鼻高履」は木製で高僧や高貴な人の履物。履を脱いで一段高い所から正座して教えを伝えなさい、との意味がある。

参考文献等： 深川不動の HP <https://fukagawafudou.jugem.jp/?eid=3003> （別紙4コピー参照）

5. 神社の御祭神

誰が、何時、どのような経緯で決めたのか。

古来山の神など自然崇拜から祀っていたものを、明治の神仏分離で、神社庁に申告する際に大己貴命にしたり（赤城神社）、木花開耶姫命にしたり（浅間神社）した。